

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4111110930		
法人名	医療法人 聖母会 古賀内科		
事業所名	グループホーム 次郎ん家		
所在地	神崎市千代田町境原282-2		
自己評価作成日	令和 1年 12月 5日	評価結果市町村受理日	令和2年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和 1年 12月 25日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院併設のグループホームのため、医療連携を図り、ターミナルケアをしている。日常の小さな変化にも、主治医へ報告・指示を受け、健康維持に努めている。施設計画の外出の他に、入居者様や御家族様の希望に添って、外出を計画したり外出の援助を行なっている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは平成15年に開設されている。天窓より自然光が射し込む明るい事務所を中心に、西南2ユニットのしっかりとした平屋作りの建物である。室内は清掃が行き届き、手作りの小物や季節の花が飾られている。居室は畳敷きとなっており、入居者の意向に合わせた設えで、落ち着いた雰囲気を感じられる。事業所はイベントなど催し、地域住民との交流を図っている。入居者も地元の人が多い。敷地内に同法人の内科医院と小規模多機能型事業所が併設し、母体医療機関家族との連携体制も充分で健康管理に努め、看取りの経験も多く、終末期まで安心して過ごせるホームである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	Aユニット	Bユニット		Aユニット	Bユニット
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念を読みあげ、理念を念頭に置いたケアに取り組んでいる。	毎朝理念を読みあげ、理念を念頭に置いたケアに取り組んでいる。	理念は、玄関や事務所の見える所に掲げ、毎日朝礼時に唱和している。職員の内容理解は出来ており、せかさず、あせらず、逆らわずの精神でケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に参加させて頂いたり、しているが日常的な交流はない。	地域の行事に参加させて頂いたり、しているが日常的な交流はない。	地域も過疎化が進み、散歩時たまに挨拶する程度である。ホーム主催の行事には地域住民の参加があり、子供神輿も立ち寄る。事業所に地域の区長が毎月訪問し、情報交流は出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に地域の方から、相談される事があり、助言を行っている。また、家族様より近所の方が困っていると相談された事あり。	運営推進会議時に地域の方から、相談される事があり、助言を行っている。また、家族様より近所の方が困っていると相談された事あり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議では、民生委員の方を交え、意見交換を行っている。その際、外出やイベント時の写真を張り出している。最後には、写真は家族様へ持ち帰って頂いている。	2カ月に1回運営推進会議では、民生委員の方を交え、意見交換を行っている。その際、外出やイベント時の写真を張り出している。最後には、写真は家族様へ持ち帰って頂いている。	会議は夜間に開催、家族、地域の役員、職員など毎回10名以上の参加者がある。意見交換もできており、運営に活かしている。記録もきちんと整備され、家族職員に開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2カ月に1回の運営推進会議へ参加して頂いている。相談事はその都度行っている。	2カ月に1回の運営推進会議へ参加して頂いている。相談事はその都度行っている。	定時の運営推進会議参加もあり、日頃より市町村との協力関係は出来ている。行政主催の研修会にも参加し、業務の相談も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内勉強会を実施し、理解を深めている。センサーマットなど使用時は、日々の話し合いを行い、外せないかを検討している。	施設内勉強会を実施し、理解を深めている。センサーマットなど使用時は、日々の話し合いを行い、外せないかを検討している。	転倒事故防止のため、センサー使用等検討し、家族への相談したこともあるが、現在は身体拘束はない。玄関の施錠も行っておらず、事業所でマニュアルを作成し、勉強会を行い内容理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会を行い、理解を深めている。対応が難しい方には、スタッフで工夫したり、検討を重ね対応策を話し合っている。	施設内勉強会を行い、理解を深めている。対応が難しい方には、スタッフで工夫したり、検討を重ね対応策を話し合っている。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、対応は管理者等が行っているのですが、その他のスタッフが理解しているかは不明である。	成年後見制度については、対応は管理者等が行っているのですが、その他のスタッフが理解しているかは不明である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分な時間をとり、その場で疑問などに返答している。納得されてから、同意、契約を行っている。	契約の際は、十分な時間をとり、その場で疑問などに返答している。納得されてから、同意、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、計画作成担当者とのカンファレンス時にご意見を頂いている。	運営推進会議や面会時、計画作成担当者とのカンファレンス時にご意見を頂いている。	家族の面会時、意見が出し易い雰囲気を作り、職員は聴き取りに努めている。日頃より家族との信頼関係の構築が出来ており、運営の改善に結びつけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議の時に、意見を聞く様にしている。すぐ出来る事は行うが、費用が掛かるものなどは、事務長、院長に相談している。	月1回の全体会議の時に、意見を聞く様にしている。すぐ出来る事は行うが、費用が掛かるものなどは、事務長、院長に相談している。	管理者は会議の時を含め、日常的に職員の意見を聞いている。定期的にアンケートも実施し、ユニット会議で話し合い職員の質問にはきちんと対応し、運営に取り込んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップの仕組みを構築し、個々の努力や実績、能力や勤務状況に応じて昇給を行っている。又処遇改善加算手当金も評価別に金額を設定し、やりがいが持てる職場環境に努めている。	キャリアアップの仕組みを構築し、個々の努力や実績、能力や勤務状況に応じて昇給を行っている。又処遇改善加算手当金も評価別に金額を設定し、やりがいが持てる職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後2～3ヶ月は指導係がマンツーマンで新入社員につき、指導行っている。法人外の研修も回覧板に挟め自由に参加できるようにしている。研修参加の為に勤務調整の優遇も行っている。	入社後2～3ヶ月は指導係がマンツーマンで新入社員につき、指導行っている。法人外の研修も回覧板に挟め自由に参加できるようにしている。研修参加の為に勤務調整の優遇も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加し、同業者との意見交換などで交流をしている。隣の和みの家さんとは、行事に呼んで頂いたり、避難訓練を合同で行ったりしている。	グループホーム協会の研修に参加し、同業者との意見交換などで交流をしている。隣の和みの家さんとは、行事に呼んで頂いたり、避難訓練を合同で行ったりしている。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当ホームに入居される場合は必ず事前に、ケアマネと計画作成担当者が病院や施設を訪問し情報を得ている。ご本人様からも意見や要望を聞くようにしている。	当ホームに入居される場合は必ず事前に、ケアマネと計画作成担当者が病院や施設を訪問し情報を得ている。ご本人様からも意見や要望を聞くようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とは入居前に面接し要望や不安な事等聞くようにしている。ご本人のバックグラウンドについての情報も、センター方式の暮らしの情報を活用しご家族様に記入して頂いている。入居後も積極的に声をかけ要望等ないか確認している。	ご家族様とは入居前に面接し要望や不安な事等聞くようにしている。ご本人のバックグラウンドについての情報も、センター方式の暮らしの情報を活用しご家族様に記入して頂いている。入居後も積極的に声をかけ要望等ないか確認している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人とご家族様に情報や要望、困っている事を聞いている為、入居日にはケアプランが出来ており、サービスが始められるようにしている。又入居後は1ヶ月の実施機関でプランの見直しを行い、必要としているサービスが提供できるようにしている。	入居前にご本人とご家族様に情報や要望、困っている事を聞いている為、入居日にはケアプランが出来ており、サービスが始められるようにしている。又入居後は1ヶ月の実施機関でプランの見直しを行い、必要としているサービスが提供できるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人一人のレベルに合わせて洗濯物を干したり、たたんだりして頂いている。又料理の配膳や掃除等もして頂いている。何処まで介助が必要なのかをしっかりと見極めた上で、出来る事はして頂き、出来ない所をお手伝いさせて頂くという気持ちで関わる様にしている。	入居者一人一人のレベルに合わせて洗濯物を干したり、たたんだりして頂いている。又料理の配膳や掃除等もして頂いている。何処まで介助が必要なのかをしっかりと見極めた上で、出来る事はして頂き、出来ない所をお手伝いさせて頂くという気持ちで関わる様にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等積極的に話しかけご家族様の意見や要望を聞くようにしている。又ご本人が日常で訴えられている事や思っている事を伝えている。イベント開催時にはご家族様にも参加と協力をお願いしている	面会時等積極的に話しかけご家族様の意見や要望を聞くようにしている。又ご本人が日常で訴えられている事や思っている事を伝えている。イベント開催時にはご家族様にも参加と協力をお願いしている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方や知人の面会もご本人、家族様の許可があれば自由に面会して頂いている。希望があれば外出レクとして行っている。	近隣の方や知人の面会もご本人、家族様の許可があれば自由に面会して頂いている。希望があれば外出レクとして行っている。	入居者の高齢化も進み、友人知人の訪問のある人ない人がある。差し入れなど自由に対応し、ドライブの時、自宅や馴染みの場所に廻るようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等積極的に参加して頂ける様声かけ行っている。利用者の中にはうまが合わずトラブルになる方もいる為、座席の配置を考慮している。トラブルがあれば、その都度座席を換え対応行っている。	レクリエーションや行事等積極的に参加して頂ける様声かけ行っている。利用者の中にはうまが合わずトラブルになる方もいる為、座席の配置を考慮している。トラブルがあれば、その都度座席を換え対応行っている。			

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	初盆の時間にお参りさせて頂き、家族様とお話しさせて頂いている。	初盆の時間にお参りさせて頂き、家族様とお話しさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話からご本人様の希望や要望等を聞き、記録に残すようにしている。困難な場合は家族様や、アセスメント等から情報を読み取り意向の把握に努めている。	日常の会話からご本人様の希望や要望等を聞き、記録に残すようにしている。困難な場合は家族様や、アセスメント等から情報を読み取り意向の把握に努めている。	日頃のケアの中で、本人の意向の把握に努めている。意思表示できない人は、家族より聞き取っている。職員は本人の身体状況の変化も含めて、柔軟に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族様にバックグラウンドアセスメントを記入して頂いたり、聞き取りの中でご本人様のこれまでの生活をできるだけ継続できるように努めている。	入居時に家族様にバックグラウンドアセスメントを記入して頂いたり、聞き取りの中でご本人様のこれまでの生活をできるだけ継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサインのチェックや表情・言動の観察を行い心身状態の把握につとめている。又一人一人のケアプランに沿って過ごして頂けるよう努めている。日常生活の中で出来る事はして頂いている。	バイタルサインのチェックや表情・言動の観察を行い心身状態の把握につとめている。又一人一人のケアプランに沿って過ごして頂けるよう努めている。日常生活の中で出来る事はして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題が出た時点で、スタッフ・家族様・医師や薬剤師などでカンファレンスを行い、介護計画を変更しないとイケない場合は即時に変更を行っている。	課題が出た時点で、スタッフ・家族様・医師や薬剤師などでカンファレンスを行い、介護計画を変更しないとイケない場合は即時に変更を行っている。	必要時、本人・家族や関係する職員と会議を開催している。入居者本人のための介護計画の変更作成を検討し、介護サービスの充実を図っている。記録整備もきちんと行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、ケアプランに基づく記録を心掛け、月1回のユニット会議で課題などを話しあっている。	日々の記録は、ケアプランに基づく記録を心掛け、月1回のユニット会議で課題などを話しあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様だけでは外出が困難な方には、個別の外出支援を行っている。	定期的な外出される方で、家族様以外の送迎がある時は、その方の連絡先等を確認し外出してもらっている。夜間外出される方には、家族様の付き添いをお願いしている。外出したいが車椅子等で外出が困難な方は、個別に外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別で地域の関りは、近所の方の面会ぐらいで、薄い。	個別で地域の関りは、近所の方の面会ぐらいで、薄い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は古賀内科だが、家族様のご希望で、他科受診・往診を受けている。	主治医は古賀内科だが、家族様のご希望で、他科受診・往診を受けている。	入居者は地域の方が多く、殆どが隣接する医院が主治医である。付き合いも長く医療との連携が来ている。他科受診の場合は、家族や職員の受診支援がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに2人看護師在職。気づいた事は、その場で伝えるようにしている。また、不在時は、24時間オンコール体制を取っているため、電話にて聞く事ができる。看護師は、必要時主治医へ報告し、指示を仰いでいる。	ホームに2人看護師在職。気づいた事は、その場で伝えるようにしている。また、不在時は、24時間オンコール体制を取っているため、電話にて聞く事ができる。看護師は、必要時主治医へ報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、次の日にサマリーを持参し、ご様子を見に行っている。病院の連携室と連絡をとり、常に情報を得る様にしている。ご家族様とも、適時連絡をとり、退院に向けて連携を取っている。	入院された場合は、次の日にサマリーを持参し、ご様子を見に行っている。病院の連携室と連絡をとり、常に情報を得る様にしている。ご家族様とも、適時連絡をとり、退院に向けて連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、本氏・家族様の望む終末期の過ごし方について尋ねている。今の時点での考えをお聞きし、記録に残している。実際に、終末期となった場合は、再度家族様と話し合い、話し合いの結果と今後について、度重ねて話している。	入居時に、本氏・家族様の望む終末期の過ごし方について尋ねている。今の時点での考えをお聞きし、記録に残している。実際に、終末期となった場合は、再度家族様と話し合い、話し合いの結果と今後について、度重ねて話している。	看取りの経験も多く、契約時文書により説明が行われている。入居者が重度化した時や状態変化時に、その都度家族と話し合いを持ち、意向を尊重し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時は、バイタル測定、臥床を促すなど行っている。主治医・看護師へ電話報告を行い、指示を仰いでいる。	事故や急変時は、バイタル測定、臥床を促すなど行っている。主治医・看護師へ電話報告を行い、指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。運営推進会議で地域の方に、非常時は協力を頼んでいる。連絡が取れるように、区長様の電話番号をひかえている。	避難訓練を年2回行っている。運営推進会議で地域の方に、非常時は協力を頼んでいる。連絡が取れるように、区長様の電話番号をひかえている。	消防署立ち合いで夜間想定避難訓練を年2回行っている。近年思わぬ災害も多く、地震や風水害に対しての具体的な避難対策が来っていない。	避難場所が平屋の公民館となっており、水害時の対応に不安がある。地域住民の支援体制を含め、現状に即応した対策が望まれる。

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念に上がっており、毎日朝礼で読み上げ、周知徹底している。	ホームの理念に上がっており、毎日朝礼で読み上げ、周知徹底している。	個人情報や人目につかない事務所で保管し、職員の言葉掛けは、入居者の行動制限に繋がらないように気を付けている。また、トイレ誘導時の羞恥心に配慮し、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を言葉に出すことが難しい方が多いので、スタッフが察して、こちらより働きかけを行い、したいことを実現できるようにしている。	希望を言葉に出すことが難しい方が多いので、スタッフが察して、こちらより働きかけを行い、したいことを実現できるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムは守りながらも、本氏の希望や体調に合わせ臨機応変に対応している。	生活リズムは守りながらも、本氏の希望や体調に合わせ臨機応変に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方は、ご自分で洋服を選んで頂いているが、季節外れな物を着ておられるときは、声かけを行い着替えてもらっている。1~2ヶ月に1回は大体の方が、訪問理容を利用し、カットやカラーを楽しまれている。	自分で選んだ洋服を着て頂いている。出来ない方は、スタッフが準備を行っている。1~2ヶ月に1回は大体の方が、訪問理容を利用し、カットやカラーを楽しまれている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット間の配膳をしてもらっている。その方が1度で運べる量を配慮している。出来る方は、キッチンカウンターまで下膳を促している。適時、外食に行き楽しんでる。	出来る方は、キッチンカウンターまで下膳を促している。適時、外食に行き楽しんでる。	食事は外部からの委託で、出来るだけ美味しい事業所を選んでいる。職員も一緒に同じ食事を摂り、下膳作業など手伝って貰い、時には外食を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キザミ、軟飯、トロミなど1人1人に合わせた食べやすい形態で提供している。食事摂取量や水分摂取量が減っている時は、本氏が好まれる物で補っている。朝食いで窒息の危険がある方は、小分けにして提供し、ゆっくり食べられるように声掛けを行っている。	キザミ、軟飯、トロミなど1人1人に合わせた食べやすい形態で提供している。食事摂取量や水分摂取量が減っている時は、本氏が好まれる物で補っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯がない方には、スポンジブラシにて残渣物を掻き出している。日々のケアで不十分な方は、週1回の歯科による居宅療養指導をうけて頂いている。	歯がない方には、スポンジブラシにて残渣物を掻き出している。日々のケアで不十分な方は、週1回の歯科による居宅療養指導をうけて頂いている。			

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適時トイレ誘導を行っている。ご自分でトイレに行ける様に目印を張っている。羞恥心から、スタッフがいたり排泄されない方は、近くで待機し安心して排泄ができるようにしている。居室のポータブルトイレを使用される方は、臭いに気をつけている。	適時トイレ誘導を行っている。ご自分でトイレに行ける様に目印を張っている。居室のポータブルトイレを使用される方は、臭いに気をつけている。	入居者個々の排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を心掛け、さりげなく支援を行い、本人のプライドを尊重し、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼らず、毎日レクリエーションで軽体操を行い、適度な水分摂取を心掛けている。	下剤だけに頼らず、毎日レクリエーションで軽体操を行い、適度な水分摂取を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回入浴して頂いている。入浴の声掛けするが、乗り気でない時は、時間を置か次の日に入ってもらくようにしている。	2日に1回入浴して頂いている。入浴の声掛けするが、乗り気でない時は、時間を置か次の日に入ってもらくようにしている。	入居者4~5人を週に2~3日、本人のタイミングに合わせて声掛けし、入浴支援を行っている。昨年は、全員でやまびこの湯に行き、温泉を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間のより良い睡眠に繋がるように、日中はレクリエーションなどに参加して頂き、活発に過ごして頂くようにしている。夜間は、居室の鍵を閉めてある方もいる。	夜間のより良い睡眠に繋がるように、日中はレクリエーションなどに参加して頂き、活発に過ごして頂くようにしている。夜間は、居室の鍵を閉めてある方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、居宅管理指導を受けており、疑問に思った事などは、すぐに聞けるようになっている。	薬については、居宅管理指導を受けており、疑問に思った事などは、すぐに聞けるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、家族様より生活歴を聞き、これまで過ごされてきた生活が継続できるように支援している。お酒等も程度はあるが、本氏が望まれるなら飲んで頂いている。	入居時、家族様より生活歴を聞き、これまで過ごされてきた生活が継続できるように支援している。お酒等も程度はあるが、本氏が望まれるなら飲んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は出来ない。レクリエーションの一環で、外出が月に1~2回出来ている。	日常的な外出は出来ない。レクリエーションの一環で、外出が月に1~2回出来ている。11月に家族様のご希望で、九年庵のお茶会に入居者様をお連れした。移動時には、家族様にも協力をして頂いた。	入居者の状況に応じて、買い物や花見や自宅周辺のドライブなど行っている。春先には事業所前の庭で花見や食事を楽しみ、家族の支援を受け外出される入居者もいる。	



自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは金銭の自己管理は行っていないが、お金を自分で持っておかないと不安な方には、家族様と相談し、所持して頂いている。	当ホームでは金銭の自己管理は行っていないが、外出時や買い物の際に入居者様に支払いをして頂いた事もあった。支払いの金額が大きくなりすぎない様あらかじめ1~2千円程渡し、その金額内で好きな物を買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれてる入居者もおり、いつでも家族様と連絡取られている。携帯を持っていない入居者でも本人の希望があれば、いつでも連絡出来るようになっている。お中元など届いた時は、お礼の電話をかけられるように促している。	携帯電話を持たれてる入居者もおり、いつでも家族様と連絡取られている。携帯を持っていない入居者でも本人の希望があれば、いつでも連絡出来るようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事などの写真を貼りだし、楽しかった思い出を感じられるようにし、毎月手作りのカレンダーを作成し、季節感を感じて頂いている。	行事などの写真を貼りだし、楽しかった思い出を感じられるようにし、毎月手作りのカレンダーを作成し、季節感を感じて頂いている。	H15年開設の事業所であるが、環境整備がなされ清掃が行き届き、生活臭もない。壁には手作りの小物や、行事時の入居者の写真など貼られており、くつろげる雰囲気作りに配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席などは、こちらが意図的に気が合いそうな方同士の席になるようにしている。一人で過ごしたい方は、ソファなどで思い思いに過ごせるように配慮している。	食事の席などは、こちらが意図的に気が合いそうな方同士の席になるようにしている。一人で過ごしたい方は、ソファなどで思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使っていた馴染みの物を持ってきて頂いている。居室内もご本人が居心地よく過ごして頂けるようレイアウトや家具の位置等自由にして頂いている。	入居時に家で使っていた馴染みの物を持ってきて頂いている。居室内もご本人が居心地よく過ごして頂けるようレイアウトや家具の位置等自由にして頂いている。	居室は畳敷きで、家具の持ち込みなど自由である。布団やベッドなど使用し 入居者それぞれの好みや状況に合わせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	配膳手伝いや洗濯物干し・たたみなど出来る事は、スタッフとともにその方の能力に合わせてして頂いている。	配膳手伝いや洗濯物干し・たたみなど出来る事は、スタッフとともにその方の能力に合わせてして頂いている。		